

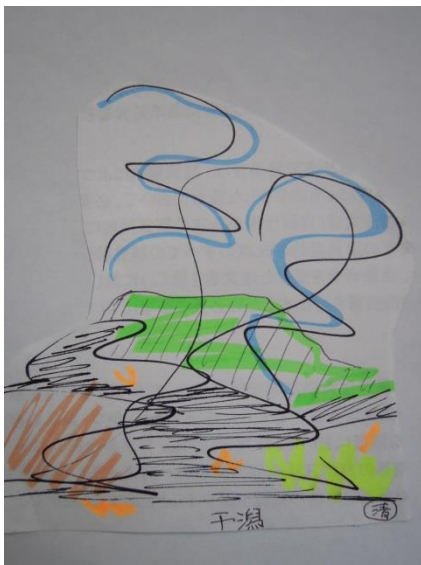
小網代の森と干潟を守る会
小網代 森と干潟つうしん



森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067 (仲澤)
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)
郵便振替：00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

第 116 回自然観察&クリーン

“アカテガニの放仔”



さあ今日はアカテガニの夜の観察会です。連日の暑さにもめげず、三崎口駅前には観察会への参加者が次々に集まってきます。集合時刻の午後4時は、まだまだ陽が高く暑いので、森への移動はバスを利用していただきました。小網代でバスを降り、漁港を過ぎて白髭神社近くまで来ると、もうそこここでアカテガニがお出迎えしてくれます。赤い手をした大きなカニや、黄色い体の小柄なカニたちが目に付くたびに、「ほら！ カニがいたよ。」参加者のみなさんの声があちこちで上がります。アイアシが茂る干潟をぐるっと回って、アカテガニ広場に到着しました。

森のお世話をしている、「NPO小網代野外活動調整会議」のスタッフの皆さんが準備したブルーシートに荷物を降ろして一休み。にぎやかなセミの鳴き声を聞きながら今日の観察会の開始を待ちます。

観察会の段取りなどの説明の後、甲高い拍子木の音が「カーン、カーン、カン、カン、カカカカン」と響いて紙芝居が始まりました。なんの紙芝居だろうと思った方は、一度森の夜のアカテガニ放仔観察会

にいらしてください。今晚アカテガニ母さんがおなかにいっぱい卵を抱えて浜にやってくる意味がよくわかりますから。

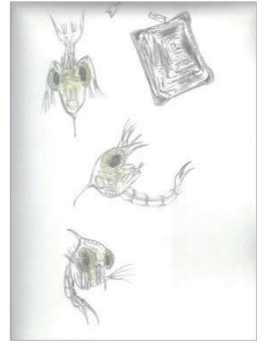
この紙芝居を演じてくれるスタッフの方たちは、一生懸命紙芝居の練習をして皆さんに、安全に暗い夜の海の中でアカテガニの放仔を観察していただこうと、そしてカニたちの安全にも気を配ってほしいと頑張ってくれているのです。説明会の後、人は海へ入ってアカテガニのお産を待ちますが、その前にお弁当を食べて腹ごしらえをしてください。約1時間半も海に入っているのですからね。

だんだん陽が傾いてきて日没が近づきました。お産のピークは日没後25分と先程の説明にありました。先導のスタッフにつづいて順番に海にはいります。水の中は歩きにくいのでゆっくり進みます。沖の方からは波がチャブチャブやってきてなんだかドキドキ、なにかにつかまりたくくなります。お父さんお母さんの手をしっかり握りましょう。上空ではサギやカワウやカラスがにぎやかです。まだ青い夕暮れの空には一番星が見えてきました。今日の一番星は土星や七夕の織姫星のこと座ヴェガなどです。あなたの一番星はなんでしたか？

まだ明るい空から波打ち際に目を移すと浜はだいぶ暗く見えます。目が慣れてくると藪の中にカニの姿がちらほら見えます。でもまだ出てきません。足元の水の底では小さなヤドカリが盛んに動き回り、ボラの子やときどきクラゲもやってきます。沖の方では大きなボラが連続ジャンプを披露してくれます。

プーンと蚊もやってきます。防虫スプレーしたから大丈夫。

浜に目をやると、ゆっくりとアカテガニがやって来ます。じっと見つめているうちに水際まで来ました。そのときです、小さな波がチャプンと砕けカニはびっくりあわてて戻ります。そんなことを繰り返すうちにカニの数がだんだん増えてきます。「あ！ やったー。」と向こうの方から歓声があがります。「早く来い。早く来い。」と思いながらじっとみつめていると、一匹のカニがすうーと水の中に入って。ぶるぶるぶるとからだを震わせました。波紋と同時に霞がふわっと広がります。カニはさっさと浜へもどります。「ライトをつけていいですよ」とスタッフの方の合図。いっせいに明かりがつけられ、放仔をじっくり観察できました。



海から上がって、いま生まれたばかりのカニの赤ちゃんゾエアを顕微鏡で観察すると、せわしく動く小さな目玉がたくさん見えました。この小さな生き物がカニになって森へもどるまでには、たくさんの試練や修行をしなければならないことを、はじめの紙芝居で見たことを思い出し、「がんばってね。」と心のなかで思いました。

(文:高橋伸和 絵:鈴木清市・高橋伸和)

※ 観察会は NPO 法人小網代野外活動調整会議と共催で実施しています。小網代の森と干潟を守る会は往復の案内を担当し、現地では NPO 法人小網代野外活動調整会議のカニパトに参加しました。

第 24 回小網代の森と干潟を守る会総会



1990年に発足した小網代の森を守る会が、一昨年4月に「小網代の森と干潟を守る会」に変わってから3年目の総会が多数の本人出席を得て加藤議長のもと盛大に開催されました。会員の皆様の気持ちとこれまでの経緯などを考慮して通算第24回目の総会とさせていただきます。

総会では、今後の守る会が果たす役割を踏まえた活動方針案、活動に即した予算案、多様にわたる担当スタッフ案などすべて原案

どおり承認されました。

目新しい内容としては、来年、小網代の森が一般公開になる予定等に配慮した『開園準備金』が計上されていることです。

一昨年、新代表になった高橋伸和氏から「小網代の森も、春からお話がありましたように、森の整備も進み何とか一般に公開できそうな目途もたったようで、やっとここまでたどり着いたんだなーと喜んでます」。また、担当スタッフ紹介の中で『長年当会の会計を務めてくれ、昨年の暮れには元気な顔を見せてくれた野内真理子さんが、つい先日の8月17日に亡くなりました。この森を心底愛していた方で、また森に入り仲間と一緒に歩けるのを楽しみにしておりましたが誠に残念ながら帰らぬ人になってしまいました。ご冥福をお祈りします。』とお言葉がありました。

そして、休憩後第2部の岸由二氏(NPO小網代野外活動調整会議代表・慶応大学名誉教授)の講演会がありました。その概要は6~7ページのとおりです。

(総会まとめ:鈴木清市)

第 24 回小網代の森と干潟を守る会 総会

日 時 2013 年 8 月 25 日(日) 13 時 30 分から 15 時 30 分
場 所 三浦市初声市民センター

全体 司会進行(小倉 雅實)

開会挨拶

第一部 第 24 回小網代の森と干潟を守る会総会

議長選出(加藤 利彦)

資格確認

議事

第 1 号議案 2012 年度活動報告案

第 2 号議案 2012 年度決算報告案

同 監査報告案

第 3 号議案 2013 年度活動方針案

第 4 号議案 2013 年度予算案

第 5 号議案 2013 年度スタッフ案

第 6 号議案 その他

議事一括審議

議長解任

休憩 15 分

第二部 記念講演「2014 年春 小網代一般開放に向けて」

岸 由二氏(NPO 法人小網代野外活動調整会議代表理事 慶應義塾大学名誉教授)

閉会挨拶

総会決議事項

第 1 号議案 小網代の森と干潟を守る会の活動報告 2012 年 7 月から 2013 年 6 月 2012 年

7/1 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ココボラ支援

7/14 小網代 森と干潟つうしん No.124 印刷・発送(横須賀市 市民活動サポートセンター)
スタッフ会議(横須賀市 市民活動サポートセンター)

8/4 第 110 回自然観察&クリーン「つながる生命 アカテガニの放仔」

8/11 総会議案書準備。富士ゼロックス夏祭り参加準備

8/17 富士ゼロックス夏祭り参加。(於:海老名)

8/26 スタッフ会議(三浦市南下浦市民センター)

8/26 第 23 回小網代の森と干潟を守る会総会

8/27 森の応援金 30 万円をかながわトラストみどり財団へ「小網代の森緑地保全のため」として寄付

9/8 小網代 森と干潟つうしん No.125 印刷・発送(横須賀市 市民活動サポートセンター)

9/29 第 111 回自然観察&クリーン「ラムサール条約と干潟の鳥」開催
スタッフ会議(三浦市総合福祉センター)

10/6 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ココボラ支援

10/21 NPO 法人小網代野外活動調整会議 トラスト観察会支援

11/17 第 112 回自然観察&クリーン「小網代の干潟周辺の植物観察」開催

- スタッフ会議（三浦市 総合福祉センター）
- 12/1 小網代 森と干潟つうしん No.126 印刷・発送（横須賀市 市民活動サポートセンター）
スタッフ会議（横須賀市 市民活動サポートセンター）
- 12/8 横須賀市 自然環境講演会参加（岸由二氏講演：「樹林地の適切な維持管理」 於：横須賀市自然・人文博物館）NPO 法人小網代野外活動調整会議と共同で出展
- 12/16 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ボランティアウォーク支援

2013年

- 1/20 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ボランティアウォーク支援
- 2/2 きらら賞授賞式参加
- 2/9 多摩三浦丘陵シンポジウム NPO 法人小網代野外活動調整会議と共同で出展
- 2/9-10 のたろんフェア 2013 出展（横須賀市 市民活動サポートセンター）
- 2/16 谷津干潟探鳥遠足
- 2/17 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ボランティアウォーク支援
- 2/23 第 113 回自然観察&クリーン「小網代の早春の海藻と磯の生きもの」
スタッフ会議（三浦市 総合福祉センター）
- 2/24 公益社団法人日本ナショナルトラスト協会全国大会参加
- 3/23 小網代 森と干潟つうしん No.127 印刷・発送（横須賀市 市民活動サポートセンター）
- 3/23 はまかぜ新聞に 4/29 自然観察&クリーンの広告をリリース
- 4/29 第 114 回自然観察&クリーン「小網代の春を感じよう」
スタッフ会議（三浦市 総合福祉センター）
- 5/12 鶴見川源流祭に出展
- 5/18 小網代 森と干潟つうしん No.128 印刷・発送（横須賀市 市民活動サポートセンター）
- 6/1 公益社団法人日本ナショナルトラスト協会総会に出席
- 6/15 第 115 回自然観察&クリーン「小網代干潟のカニと貝 ヤドカリもね！」

第 2 号議案 2012 年度 決算報告

2012 年 7 月 1 日から 2013 年 6 月 30 日

単位円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	1,280,321	1,280,321	0	通信費	100,000	58,950	41,050
会費収入	100,000	126,000	-26,000	交通費	60,000	10,770	49,230
売り上げ収入	150,000	119,080	30,920	事務消耗品費	10,000	8,534	1,466
寄付金収入	100,000	168,534	-68,534	研修費	10,000	0	10,000
森応援金収入	150,000	158,800	-8,800	会議費	80,000	52,469	27,531
預金利子収入		237	-237	広報費	50,000	21,770	28,230
				諸手当	100,000	110,000	-10,000
				諸会費	50,000	50,500	-500
				仕入れ	20,000	97,694	-77,694
				みどり寄付金	300,000	300,000	0
				次期繰越金	1,000,321	1,142,285	-141,964
合計	1,780,321	1,852,972	-72,651	合計	1,780,321	1,852,972	-72,651

次期繰越金内訳（円）

現金	3,141
普通預金	41,430
振替貯金	594,720
定期預金	502,994
合計	1,142,285

第3号議案 2013年度活動方針

1. 森と干潟での自然観察&クリーン活動の推進
2. 森と干潟における NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動の支援
3. 活動報告と自然を紹介する会報「小網代 森と干潟つうしん」の発行
4. 財団法人かながわトラストみどり財団の普通会员及び小網代支援会員を増やす活動
5. ラムサール条約湿地の指定を目指す研修、啓発の活動

第4号議案 2013年度 予算 2013年7月1日から2014年6月30日

単位円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	12年度決算額	差異	科目	予算額	12年度決算額	差異
前期繰越金	1,142,285	1,280,321	-138,036	通信費	70,000	58,950	11,050
会費収入	130,000	126,000	4,000	交通費	30,000	10,770	19,230
売り上げ収入	150,000	119,080	30,920	事務消耗品費	10,000	8,534	1,466
寄付金収入	200,000	168,534	31,466	研修費	10,000	0	10,000
森応援金収入	200,000	158,800	41,200	会議費	80,000	52,469	27,531
預金利子収入	300	237	63	広報費	50,000	21,770	28,230
				諸手当	120,000	110,000	10,000
				諸会費	60,000	50,500	9,500
				仕入れ	100,000	97,694	2,306
				みどり寄付金	300,000	300,000	0
				開園準備金	100,000	0	100,000
				次期繰越金	892,585	1,142,285	-249,700
合計	1,822,585	1,852,972	-30,387	合計	1,822,585	1,852,972	-30,387

第5号議案 2013年度 スタッフ ()は主たる受け持ち

代 表 高橋伸和

副代表 矢部和弘 (広報) 小倉雅實 (観察会) 仲澤イネ子 (総務)

企画渉外 岸 由二 築瀬公成 柳瀬博一 辻 晴一 浪本晴美

会 計 宮本美織

総 務 山本述子

広 報 橋美千代 松下景太 中井由美 橋ちひろ

観 察 会 鈴木清市 菅野哲生 松原あかね 祖父川精治

鈴木カヲル 岩崎敬一 ジポーリン菜穂子 別府史朗 木皿直規

(会計監査 櫻井秀真)

第6号議案 その他

記念講演「2014年春 小網代一般開放に向けて」 講演要旨

岸 由二 氏 (NPO 法人小網代野外活動調整会議代表理事 慶應義塾大学名誉教授)

1 はじめに

1983年からこの森の保全に関わって満30年、小網代の森を守る会が1990年に発足し23年目です。これまでいろいろな事がありつつ、本来あり得ない偶然も重なったりして、これまでに完全保全が実現しました。あと、鳥獣関係の猟区が保護区になれば2013年秋、「小網代の森の枠組」は固まったと考えてよいでしょう。



2 小網代の森の整備の現状

* 京浜急行のCSRの活動として散策路と橋の整備のルートがほぼ決まりこれから来年3月までに散策路と橋は県と京急電鉄が、森の整備はNPO小網代野外活動調整会議が実施していきます。

* 森の一般者へのオープンは当初、2014年春を考えていたようですが、現在作業が遅れていて、7月に変更になるようです。

* 森の整備の状況として、これまでにボードウォーク、階段ができましたが、現在使用している河口の石橋はいろいろな事情で取り壊され、少し上流側の大エノキの辺りにデッキと共に設置されることになっています。

この橋は現在、三浦市が管理しておりますが急速に周りから浸食を受けており、その原因は3・11の津波の影響で河口の地形がすっかり変わったことと、アマモ場の壊滅による波エネルギーの変化等が考えられます。

3 今後、NPO 法人小網代野外活動調整会議はなにをやるのか。

* 中央の谷の各所に残っている笹を全部刈り取らねばなりません。

NPO小網代が、正式に湿原回復を始めたのは2009年10月からで、台風18号が来て真ん中広場の乾燥地が1日で湿原になった。県から2009年に森に手をつけてもいいよと言われて以来、正味3年で、一面に笹が生えていたところも刈り取り、今は昔のことを思い出すのが無理のような湿原が回復してきています。これで湿原化はほぼ完成です。

* この秋、山側に防火帯として5m位の幅で木を切る予定にしている。

* 川の回復も極めて順調に推移してきていて、今はカワニナ、イシマキガイ、ゲンジボタルが急増してきています。

* 斜面の樹木伐採については、今、小網代の森は各所で常緑樹が巨大化して、下層植生が生えず、岩がむき出しになり泥が流れてしまうわけです。一部人が見るわけでもない所は放置せざるをえません。

* 当面の課題として「南の谷」は、水量も多く、うまく整備すれば生物多様性のサンクチュアリにできる。そろそろ、中央の谷の形状的維持管理をしながら南の谷の生物多様性の回復作業もやっていく。

北の谷は面積がかなりあり、水量が最も多く下流の湿原を支えている。1993年ころ京急からあそこだけ埋め立てをさせてくれといわれたが断わった。要は、小網代は全体で森を守っていくという考えできた。

この谷は、生物多様性でなく保水力の増強と常水が切れない谷にするということを提案してきた。



4 小網代の森、オープンに向けての課題

まず、安全確保のための通路の整備と防火帯の確保。今後、オープンすれば人が四六時中入るようになるので、一番大きな問題はパトロールをどうするか。夜も閉鎖できない。監視カメラの話も出てい

会員便り

ひとこと

「森と干潟を守る」ことをしっかりやりやていきましょう。(T.F)

岸先生のお話を聞きたいのですが。残念です。

(Shio²さま)

いつも遠方より見守っているだけの会員です。皆様の熱意に感動！(S.Oさま)

また小網代の森に入れるようになります。会のますますの活躍を期待しています。(K.Eさま)

色々な行事に参加出来なくて申し訳ありません

(T&Y.Hさま)

いつも、小網代のために労して下さる皆様に心から感謝申し上げます。有難うございます(K.Tさま)

小さな命を大切に、小網代の森と干潟を守っておられる会の皆様のご苦勞をいつも想っています。先日、畑仕事中、デジカメをケースごとカラスに。まあいいか！人間の不用心がまねいたことです。

(H.Fさま)

観察会その他の行事に参加したいと思いつながら、中々実現しない内にすぐ一年がたつてしまいます。皆さんのご活躍楽しく読んでいます。

(S.Oさま)

小網代つうしんありがとうございます。スタッフの皆さまのご苦勞感謝しています。よしはらのお話興味深く楽しく読ませて頂きました。皆様のお身体大切に!!

(N.Uさま)

皆様の御活躍をお祈りいたします。(K.Sさま)

いつもありがとうございます。

(M.Kさま)

お世話になっています。

(N.Nさま)

活動の報告ありがとうございます。(T.Nさま)

活動に参加できませんが、応援しています。(Y.Tさま)

皆様によろしくお伝えください。(A.Tさま)

体調悪く、参加できませんが干潟を守る会を応援しています。よろしく願います(M.T)

観察会に参加出来なくて残念ですが、干潟つうしんをよく読んでおります。

(T.Sさま)

いつも通信を楽しく拝読いたしております。ありがとうございます。

(N.Mさま)

小網代つうしん楽しく読ませていただいています。会の運営委員さんの陰ながらのご苦勞、有難うございます。(K.Tさま)

会報いつもありがとうございます。「継続は力なり...」長い間続けてきたスタッフの皆さまに敬意を表します。(K.Kさま)

ごぶさたしております。家族の病気等でなかなか会の活動にも参加できず残念です。なんとか時間をつくって参加したいと思っておりますが...。(K.Sさま)

微力ですがこれからも協力いたしたいと思っています。皆様の御活躍を祈っております。(Y.Oさま)

森を守るための会に出席できず申しわけございません。パンフレットで様子をうかがい気持ちだけで応援しています。

(S.Fさま)



随想

随想 小網代でんてん ⑧

海から陸へ——アカテガニ

須田漢一

「カニは陸、人は海」の合言葉をとなえて日没の25分前に海へ入り、所定の場所に立つ。

夏の大潮の今日は、森に住むアカテガニのお母さんが、おなかに抱えた幼生を海に放す（放仔^{ほうし}）のだ。

10分ほど過ぎると、岸辺の草や低木のあいだから、母ガニたちがあたりに注意をはらいながら、岩の上や水辺に近づく。ころ、良しと見るや汀線から海に踏みこみ、腹部を激しく震わせ、その数万〜5万といわれる泡のような幼生（ゾエア）を海に放し、くるりと向きを変えて森に戻っていく。その間、わずから秒ほど。わあーとあちこちで声が起こり、ドラマの一場面は終わった。

海から陸にあがった甲殻類の中で、潮間帯から潮上帯、さらに陸へと入っていったカニの中に、ベンケイガニとアカテガニがいる。しかしベンケイガニは磯からそれほど遠くに離れていかず河口部のアシ原を中心に暮らしをたて

た。それに対してアカテガニは渚を離れ、森や崖、樹の上、道端、人家の庭先までも進出していった。

なぜ、アカテガニは海から出て陸で住めるようになったのだろうか。それは鰓^{えら}の構造を進化させたからだといわれる。アカテガニは鰓室^{さいしつ}と呼ばれる仕切りの中へエラを閉じ込め、空気に触れた少量の水を貯めこみ、それで呼吸できるしくみを持ったことで陸に暮らせるのだ、といわれる。

それならアカテガニはどこまでも内陸へ入っていきけるかという……できない。成長のための脱皮には川辺や水溜まりが必要であるし、幼生を孵^{かえ}すときは海へ戻らなければならぬ。干潟で生活していた往古の時代と同じように、繁殖のときは体内に組み込まれた時計によって、干満の周期から逃れられない宿命を持っている。

アカテガニが海から陸に住むことを選んだのは果たして幸せだったのだろうか。言えることは、たくさんの生きものが暮らしている沿海や干潟が、餌の確保や鳥などの捕食者から身を守るのに必ずしも楽園ではなかった。陸（森）を選んだのには、そうした理由もあったに違いない。

現在、人は土木技術を駆使して、自らの都合のよいように海と陸を変えてしまった。結果、干潟の埋め立て、川や海辺の護岸や堤防によって生きもののつながりは切れ、その数は減り、絶滅した。いま周辺の海を見渡して、アカテガニが、ゾエア〜メガロパー稚ガニとなって陸に戻ってこられるところは、小網代を除いて無いに等しい。海から陸へと住み処^{すみか}を変えたところ、こうした著^{いちじる}しい変貌^{へんぼう}は想定していなかっただろう。

森〜川〜干潟〜湾とつながる小網代のようなところは、関東地方で唯一といわれる。海と陸が一体となった里山風景の残る流域は、アカテガニを守る最後の砦^{とりで}だ、と決めつけたくないが、そう思う。

ここは地球上でのミクロな一部に過ぎないが、アカテガニを含め、多様な生きものの生息する森と干潟を守れなかったなら、ホモ・サピエンス・サピエンス（知性ある人）の学名が恥ずかしい。

「ゾエアは、海から陸に」合言葉にしたい。
(2012、7/21 8/4 8/18 8/31 9/1 観察)

(参考にした書など)

『いのちあつまれ小網代』小網代の森の住人たち『小網代の生きもの百科』『カニバトマニユアル2012』

干潟のゆりかごの小さな住人 その11

世界のあちこちで葦笛。世界中に葦原。



ジポーリン菜穂子

今年の夏も堪え難い暑さの日々が続きました。昭和ヒトけたの東京も、暑かったようですね。その様子を「夏」という随筆に残したのが、物理学者の寺田寅彦。漱石の『吾が輩は猫である』の水島寒月のモデルだと考えられている学者さんです。猫の飼い主、くしゃみ先生の学生です。

街路のアスファルトの表面の温度が華氏の百度を越すような日の午後
に大百貨店の中を歩いていると、私はドビュシーの「フォーヌの午後」
を思いだす。一面に陳列された商品がさき盛った野の花のように見え、
天井に回るファンの羽ばたきとうなりが蜜蜂を思わせ、行交う人々が
鹿のように鳥のようにまたニンフのように思われてくるのである。あ
らゆる人間的なるものが、暑さのために蒸発してしまっ、夢のよう
なおとぎ話の世界が残っているという気がするのである。

文中、華氏百度というのは、摂氏の38度ほど。当時のデパートは、冷房もなかつたのですよね。暑さで、デパートが、森に変わってしまうのですね。ニンフ、というのは、トビケラやカゲロウの幼虫のことではなさそう。ギリシャ神話に出てくる女神様たちのことですね。このニンフたちを、半分ヤギ、半分人間の姿をしたローマ神話の豊穡の精霊、フォーヌが追いかけるのです。その情景を一六行詩、

『半獣神の午後 *L'Après-midi d'un Faune*』にしたのが、フランス象徴主義の詩人マラ

ルメ。この詩に触発されて、ドビュッシーが『「牧神の午後」
への前奏曲 *Prélude à "L'après-midi d'un faune"*』という管弦
楽曲を作り、明治25~27年にかけて、発表しました。東京
に日比谷公園ができた頃です。けだるく官能的な雰囲気フル
ートで表現されています。



上品でイケメンなフォーヌは、縦笛の名手でもあったよう
で。その笛でニンフたちが踊るのです。ショームというルネ
サンス期の木管楽器のもとになっているものだろうと考えら
れています。ショームという言葉のもともとは、ギリシャ語
のカラムス *κάλαμος* (*kalamos*) です。さて、この言葉の意味で
すが。そう！「葦」という意味です。ラテン語では、*calamus*
です。つまり、ニンフが聞いていたのも、葦でできた笛、
だったわけです。実際のショームの起源ですが、トルコのズ
ルナという笛ではないか、いやいや、エジプトからやってき
たのでは、ポルトガルのチャラメラではないか、いやいや

アラビアの・・・などなど、なかなか賑やかです。さて、もうおわかりのように、ラーメンのチャルメラも同じ起源です。葦で笛を作って、ニンフを誘惑してみたり。ラーメンの到着をお知らせしてみたり・・・。いろいろな場所がその起源としてあげられているのも、東でも西でも、私たち人間の考えたことは似たりよったりだったのでしょうか。だれもが、葦を切って、よし、これで音を出して遊ぼう！！と考えたのですね。

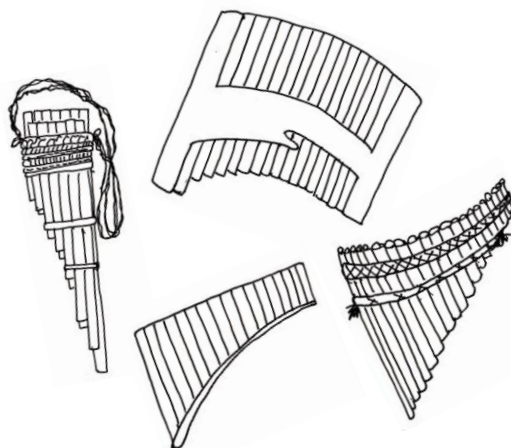
ショームが進化していくとオーボエになります。プロの笛吹きの方たちは、楽器そのものもそうですが、吹き口につけ、振動させて音を出すリードという舌のような薄片を、それはそれは大事にしていますね。「リード」というのも「葦」の意味。もともと、その昔々、笛自体が葦で作られたからでしょう。リードは、ダンククという葦に似たイネ科の多年草が、よいとされているようですが、最近は竹も多いそうです。これを、ご自分で削って、微妙な調整するそうですね。削るのには、トクサを使うそうですね。千潟の住人たち、音楽界でも大活躍ですね。

世界の葦笛は、イケメンばかりがその起源ではございません。ギリシャ神話の牧羊神パーンにも、ご登場願わなくては。先ほどのフォーヌなどとも、混同されて、考えられていることも多いそうです。こちらは、ニンフのシュリンクスに片思いをしましたよ。しかし、シュリンクスは葦原に隠れてしまいます。シュリンクスをつかまえようと、葦ごと抱きしめますが、シュリンクスは、もの見事に逃げてしまって、抱きしめていたのはただの葦束でした。パーンはがっくり。そこへ風が。そうすると葦から、えも言えぬ美しい音が響きました。音楽が大好きだったパーンは、失恋の痛手をもものともせず、あるいは、失恋の痛手を乗り越えようと、せっせと葦を何本も刈り、いろいろな長さに切り、それぞれに違う音が出るようにしました。それを束にしてくくり、笛にいたしました。パンパイプです。パンフルートと呼ばれることもあります。

こちらの進化形は、パイプオルガンですよ。つまり、パイプオルガンも、もともとは葦笛が起源、ということですね。原理は、空気を送りこみ、音を出します。子供の頃、ラムネを飲み終わった後、必ず、やりましたよね。瓶を口につけて、ポオウホオウという音を出すの。あれをやらすには、飲み終わったことにならない、というくらいでしたよね。

このパンパイプの類似形も、また、世界中に散らばっています。アラブのナイ。それからルーマニアにもナイ。ルーマニアのナイは、日本でもザンフィルという演奏家が CD を出しているそうです。南アメリカのケーナ。これも、もともとは葦で作られていたそうです。また、アンデスのサンポーニャ。葦原は少し遠かったでしょうね。こちらは、コンドルの羽軸かもしれません。モーツァルトのオペラ「魔笛」で鳥刺パPAGEノが吹いているのも、明らかにパンパイプ。実際にはフルートが演奏しています。この楽器の起源は石器時代にまでさかのぼるかもしれないそうです。

おそらく、パンパイプはヨーロッパからシルクロードを経て中国に渡ったのでしょうか。



あるいは、その逆のルートも考えられるでしょうか。中国にも、古代から伝わる排簫バイシャオという楽器があります。これが日本にもやって来ました。正倉院の御物の中にも、パンパイプに似たようなものがあるそうです。また、正倉院の「墨絵弾弓図」すみえのたんきゅうずには、排簫を演奏する楽人が描かれています。2007年第59回正倉院展の展示です。日本では笙という字を使いますね。鳳笙という美名を使うそうです。楽器の形が、鳳凰が翼を広げた様子に似ているからですね。清少納言も、笙のその美名のように、天から届くような美しい音色を気にしていたようです。

笙の笛は、月のあかきに、車などにて聞き得たる、いとをかし
『枕草子』 笛は

雅楽で使われる楽器に篳篥ひちりきもあります。こちらは、「舌（リードのことです）」に葦が使われています。篳篥の音程は、お寺の鐘を照準とするそうです。京都と妙心寺と知恩院の梵鐘の音で、楽器の音程を決めるのです。

葦は世界の音楽のルーツなのですね。つまり、これは世界のあちこちで葦原が広がり、文明が生まれたということでしょう。全人類のふるさと、アフリカの神話でも、たとえば、ウクルンクルという神さまは、葦原から生まれたとされています。ユダヤの民をエジプトの奴隷から解放に導いたとされるモーゼも、葦原に隠されていて、一命をとりとめました。さらに、エジプトから逃れるときに、海を渡るのですが、この海の水が、左右真っ二つに分かれて陸地が現れたと、『ヘブライ（旧約）聖書』の「出エジプト記」にあります。「十戒」のシーンです。この海は紅海だとされていますが、ヘブライ語では「葦の海」と書かれているそうですよ。干潟の満潮と干潮を考えると、あながち、起こり得ないことでもないかも。

この『聖書』では、人間を葦にたとえています。傷ついて倒れてしまうかもしれないが、折れてしまうことはない、ということなのです。そして、私たち人間は、葦は葦でも、「考える葦である」と言ったのは、17世紀フランスの哲学者、パスカルです。『パンセ』に書かれています。考える。大事ですね。ナチスに関して「悪というのは、人間の邪心から生まれるのではなく、人間が考える、ということ（集団で）やめたときに生まれる」と言ったのは、自らも収容所に入れられながらも、ナチス戦犯を厳しく糾弾することをしなかったハンナ・アーレント。ハイデガーの弟子です。

さて、フォーヌは、葦を刈って、笛を作り、ニンフたちと楽しいひと時を過ごしましたが、万葉人と「葦」も、なかなかロマンチックですてきです。『万葉集』の一句をご紹介します、終りたいと思います。

難波人 葦火焚く屋の 煤すしてあれど
おのが妻こそ 常めずらしき 作者未詳 卷 11-2651

水の都に住む難波の人たちが、葦火を焚く部屋のように、煤けて古びているけれど、私の妻は、いつもいつも可愛いんだよ。という意味。解説不要でしょう。

参考にした本：

小川正廣『ウェルギリウス アエネーイス 神話が語るヨーロッパ世界の原点』（2009 岩波書店）

ブルフィンチ『ギリシャ・ローマ神話』野上弥生子訳（1978 岩波文庫）

安倍季昌『雅楽箏篋千年の秘伝』（2008 たちばな出版）

マジシ・クォーネ『アフリカ創世の神話-女性に捧げるズルーの讃歌』竹内泰宏 訳（1992 人文書院）

Lesley Adkins, *Empires of the Plain: Henry Rawlinson and the Lost Languages of Babylon* (2003 St. Martin's Press)

ほか

すごい！！おぐらさんの干潟への愛！！コーナー

小網代の干潟で葦笛を聞くとまた違う干潟に出会えそうですね。

干潟で笛を吹く貝もカニもないようですが、小網代の葦原近くで見られるシオマネキは英名ではfiddler crab バイオリン弾きですね。日本でも沖縄の八重山地方の民謡「やく じゃーま節」では三味線（サンシン）を弾くカニとして歌われています。「うさいぬ泊ぬヤクジャーマ 作田節ばみよーる・・・」と歌われます。この中でヤクジャーマはベニシオマネキ、シラカチャは小網代でも見られるハクセンシオマネキのようです。この民謡も葦笛と共に小網代の干潟で聞いてみたいと思います。



伸さんのご近所レポート!!

☆以下今日三崎口駅横の坂で目撃したドキュメントです。

坂を下っていたところ、突然オオスズメバチが足元におちてきました。

びっくりしてあとずさってよく見ると、青いカナブンをおそっています。

地面でレスリングです。組み合ったままころげまわっています。

ハチはお尻を曲げて針を刺そうとしますが、なかなか刺さりません。

そのうちにカナブンの背中の羽の合わせ目にプツプツと針がささる音がしてきました。

だんだんカナブンは動かなくなり、蜂はかかえて飛ばうとしました。

しかし、重いせでしょうか10センチくらいホバリングして地面におりました。

それからどうしたでしょうか？

カナブんに噛みつきだしたのです。がりがり、ガリガリ音をたてて組み付いています。

再びレスリングが始まりました。

しばらくすると、頭を切り落としてしまいました。

硬い上羽をバラバラにはずします。

その下の薄い羽もはずします。

するとすぐにアリが寄ってきて羽を運びはじめました。

スズメバチは何度も重さを計るようにホバリングしたあと、線路の方へ獲物を抱えて飛び去りました。

アリには悪いけど、ハチが残っていた残骸を拾ってかえり、虫眼鏡で観察しました。

カナブンは頭に胸が半分ついた状態でのこされていて、ハチは腹だけ持っていったようです。

以上10分間のできごとでした。

(伸) 2013/9/9



今年の秋はスズメバチが多いようです。森の周辺でもたくさん見かけます。ご用心！



すきとおる花のような

中井由実

私が小網代にめぐり会った時

地元三浦のわんぱくな母さん達の中に

その人はいた

おだやかな

すきとおるような笑顔の人だった

一緒に観察会を歩くと

華奢な身体の中に

たくさん自然を歩いてできた

一本の剛つよいものが通っているとわかった

かじかむ小網代鍋の日

草いきれの放仔観察会

小網代湾の幸が並ぶ忘年会

近く近く膝を付き合わせて

小網代の保全を語っていた

夢みていた

なのに 新生した森の出発を見ずに

彼女はあまりにも潔く

いつてしまった

病室ではもう見られないから

あのすきとおった笑顔のおもかげを探しに

秋の小網代を訪ねてみよう

小網代の森と干潟を守る会の活動

- 6/22 NPO 法人小網代野外活動調整会議ボランティアウォーク支援
- 7/20 小網代 森と干潟つうしん No.129 印刷・発送(横須賀市市民活動サポートセンター)
- 7/20 スタッフ会議(横須賀市 市民活動サポートセンター)
- 8/5 まるごと博物館連絡会参加
- 8/10 第 116 回自然観察&クリーン「カニのあかちゃんとこんにちは！ アカテガニの放仔」
- 8/23 富士ゼロックス夏祭り出展
- 8/25 スタッフ会議(三浦市 初声市民センター)
- 8/25 第 24 回小網代の森と干潟を守る会総会

ご寄付ありがとうございます

会の活動費 赤川美紀さま、浪本晴美さま、嶋津誠さま、吉田茂さま

森の応援金 鈴木慶子さま、加藤清子さま、前田信二さま

以上の方からご寄付をいただきました、ありがとうございました

会員更新のお願いと新入会員募集のお知らせ

◆ 会員更新のお願い

会員の皆さまには、すでに更新のお願いと振込用紙をお届けしておりますが、是非、来年度も引き続き会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

年間会費(2013年7月～2014年6月)は、通常の会員は1,000円、賛助会員は5,000円で、いずれも振替料金のご負担をお願いしております。

郵便振替(00の払込取扱票) 00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

◆ 新入会員募集のお知らせ

小網代の森と干潟を守る会の入会は随時受け付けておりますが、会員年度は7月から翌年の6月末までとなります。入会を希望される方は、上記の口座に年間会費をお振込みください。その際、通信欄に「入会希望」とお書き下さい。入会金は不要です。またメールアドレスをお書きいただいた方には会員専用ページのIDとパスワードをお知らせします。

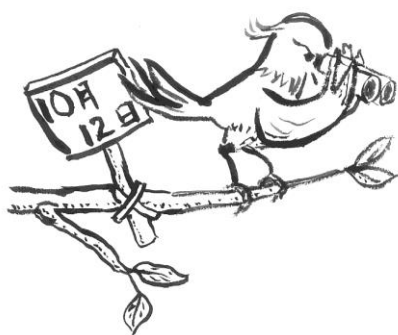
第 117 回自然観察 & クリーンのお知らせ

主催：小網代の森と干潟を守る会 共催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

◆干潟の鳥「カワウにフンガイ?!」

異常ともいえる暑い夏も過ぎ、10 月にもなると風も心地よい季節になり、夏の間、北国や高原で子育てをしていた鳥たちが暖かい南の国を目指して通過したり、小網代で冬を過ごすために帰ってきます。

小網代湾を囲む木々にはアオサギ、ダイサギ、コサギ、カワウなどが、そして毎年現れるミサゴやノスリ、オオタカなどのタカ類が、干潟や周囲の湿地にはシギやチドリが、河口にはカワセミも姿を現します。



日 時 : 10月12日(土) *小雨決行
集 合 : 10:00 京浜急行三崎口駅改札前
(トイレがありませんので必ず駅で済ませてください)
解 散 : 14:00 ころ現地解散
講 師 : 別府史朗氏
持 ち 物 : 長靴、お弁当、飲み物、雨具、(あれば: 双眼鏡、図鑑など)、小さなお子さまは着替えもあると安心です
申 込 : 当日現地で受け付けします
費 用 : 無 料
お問合せ : 046-889-0067 (仲澤)

NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。通常のトラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。小網代の森をよろしく願います。

◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議 (電話: 045-540-8320 E-mail: koajiro@koajiro.org) までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代 森と干潟つうしん NO.130 2013年9月14日発行
森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
電話 046-889-0067(副代表 仲澤)
URL: <http://www.koajiro-higata.com>
年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月~6月 入会金不要)
郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会
* 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6月末)までお届けしております